

# 営農技術情報

—畑作（秋まき小麦③）—

令和3年 5月20日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524  
JA道北なよろ TEL01655-3-2521  
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

赤さび病の発生状況を確認し、止葉期の防除を行いましょ！

## 1 生育経過

幼穂形成期は、平年より7日早く迎えました。草丈は長く、茎数は平年並です。一部のほ場では、下葉に赤さび病が発生しています。

表1 生育状況（5月15日現在）

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )
本年	4/ 6	5/ 4	-	-	32.2	1,592
平年	4/17	5/11	5/31	6/ 5	26.9	1,656
遅速	早11日	早7日	-	-	+5.3	-64

## 2 止葉期の窒素追肥

追肥量は窒素4kg/10aを目安とし、これまでの追肥量やほ場の地力を考慮して設定しましょう。ただし、倒伏を避けるため、前回の追肥日から15日程度間隔を空けましょう。

## 3 植物成長調整剤の使用

茎数が多く葉色が濃いなど倒伏が懸念される場合は、植物成長調整剤を使用しましょう。使用する際は、使用時期が遅れないように注意しましょう。

表2 植物成長調整剤（JA道北なよろ農作物施肥・病虫害・雑草防除ガイドより）

資材名	使用時期	10a当使用量	10a当水量	使用回数
サイコセルPRO	出穂前20～10日 (草丈約40～60cm)	200～300mL	100L	幼穂形成期後 1
カルタイムフロアブル	止葉期（止葉50%展開） ～出穂始期	150～200mL	100L	1
エスレル10	止葉期～出穂始期	200～333mL 200mL	100L 25L	1

※出穂始期は、初めて出穂（穂先が止葉の葉鞘から抽出した状態）を見た日～20%出穂まで。

## 4 赤さび病の防除（止葉が抽出するまでに下葉に病斑が目立つ場合）

昨年は、5～6月の高温により一部のほ場で赤さび病が多発、早期に枯れ上がり、細麦の一因となりました。ほ場での発生状況を確認し、防除を行いましょ。

表3 赤さび病の防除薬剤例（JA道北なよろ農作物施肥・病虫害・雑草防除ガイドより）

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
チルト乳剤25	2000倍	収穫3日前まで	春期以降3
イントレックスフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	融雪後3
ミリオネアフロアブル	4000～8000倍	収穫7日前まで	2

※過去に葉枯症状が発生しているほ場では、チルト乳剤25を使用しましょ。

※チルト乳剤25の使用倍率は、北海道農作物病虫害・雑草防除ガイドの赤さび病推奨倍率。

◎ 農薬は使用基準を守り、農薬飛散に注意しましょ ◎